光

第三十輯

大正十三年三月

●「無所有」から「預りもの」まで……西田天香

●社會事業への歩み……松下吉衛

●テントから……中西重一

●冬の日の光……藤井悌

●天香師のメモから……B生抄

●一燈園生活問答……まつした

同人懺悔報恩の奉仕者
所願不二の光明によれる生活
費用供養されたる浄財

●戀と愛と……谷口雅春

●京都一燈園日記……高頭生

●長姫一燈園日記……谷野捨三

●燈影餘錄……安部見如

●東京一燈園より……敬偉無

●深謝と懇請……松下吉衛

一燈園・宣光社

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

深謝と懇禱

同人、光友其他大方の諸兄姉から『子供の家』へ金品の御供養を賜つたこと實に少からぬものがあります。不德私共ごときには過分に存ぜられる位です。無能の私共に果して何程のことが出來るか覺束ない限りてはありますが、夙夜怠らず、芳志の萬一に報いたいと思つてゐます。

尙、お願ひがあります。實は、本氣の震災救護はこれからなので、奉仕者が非常に要求されてゐるのです。物も心も靈もやけたゞれた此の帝都の土臺からの建てかへに身を挺してあたらうとする方の御來援を懇禱いたします。

東京、青山、明治神宮外苑バラック『子供の家』

東京一燈園當番　松　下　吉　衛

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

『無所有』から『預りもの』まで

西田天香

若し、おひかりにひつたり一つになつた時は、無所有の姿であらうと、又財物を預つて居やうと、内容に於て一つである。ひつたりとおひかりに一つになつた人格者であれば、外から見ても『彼は財物を占有して居る』などゝ云ふ忌まはしい惡感を起さぬであらう。理想的の長者（もの持のこと）には、其村人が心からの尊敬を拂ひ、且他村に對しての自慢の種になり得る事もある。如此長者は、已れの身持が村人のそれと異らないのみならず、寧ろ一段嚴肅に且徳を亡ぼさないにきまつてゐる。其長者となつた原因も、無理に儲けたのでなくて、おのづから溜つたのである。有無相通じ、緩急互に助ける事になつてゐる。大きな家は村人の公會堂の代りになり、何につけても村人の事は先達となつて世話もする。常に村の利害について考へ、他村との村交際をつとめ、村人の氣づかぬ事に骨を折り且祈る。かやうな長者ぶりであるときに、何で村人が反感を起そうぞ。此長者の財物の持ち振りが人格的であるからだ。大體に於ておひかりより預れる態度と云うて良い。たとへ名義がその人のものであつても、外から見てあまり差支がないやうである。

けれ共、人の心が信じあへない樣になり、あげ足をのみとりたい氣持である時には、此樣な持方をして、其人の名で持つ事に不滿足を云ふかもしれぬ。是は云ふものゝ惡いことは無論であるが（もし云ふ者が此長者の人格より劣つてゐた時に）、長者の人格が其子に傳はらずして、其子が當然相續するものとせば道理もあ

る。それは相續者が何をするか分らぬから。こうした時に生れる考へが、公有とか社會有とか又は財團法人とかてある。

公有にしても公有の弊がある、社會にしても社會有の缺點がある、財團法人にしたとて決して運用が甘くゆくものでない。寧ろ人格者が個人で、個人で運用する事が非常に能率があがることは、是迄の事實が十二分に證明しているけれ共、有德と勤勉で集めた親の長男が、其弟や妹連にも分配だにせぬ先きに、親の一年忌にも滿たないうちから、馱々ら遊びや相場に手を出して、目茶々々にする樣な例も澤山あるので、私有制度も問題になるのである。已れが懈怠して解放を迫つた、已れの非人格を棚に上げて權利よばわりするのは問題にならぬ。不都合であれども出來る事ならば折角人格的に預つた財物が、其人の爲めにも子の爲めにも社會の爲めにも、障りのない樣に保管應用されるに越したことはない。

今靜かに、其財物のたまる始めの狀態に遡つて考へて見るに、そのまじめな人格に二通りある。一つは始めからおひかりよりの預りものと思ふ人と、今一つは人格的に扱ひはするが矢張自分のものと思ふ人とてある。

普通では後者が多い。自分のものと思ふのに無理はない。なぜかと云へば、勤勉と節約とが無かつたら、決して集まる筈がなく、そうして其勤勉と節約は自分の持ちものであるからである。一人で集まる筈はなく、家族全體が共同一致した結果とすれば、其家庭全體の所有と思ふは當然である。若し之れを當然とさせないならば、所謂人として勤勉節約が出來なくなる。或る國で謂れなく財產を沒收したり徵發したりする時代では、國民がなまけがちになる。己れの慾望を基としてゝないと働けないのが、あさましいけれども人間の情てある。たとへ主人一人が相當の人格者であつたとしても、使用人を利益の目的なしに働かす事は容易てな

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

いかような根强い道理の爲めに、矢張自分の物と思はねば集まりもせないことになる。只勤勉と節約の出來る人はどこかに堅忍不拔な處がある、これが人格と結びつくときに、理想的の長者が出來る。けれども根本が自分のものと思ふ氣持てある爲めに、又家族の同じ様な心持の爲めに、色々の障りを完全に除く事は困難てある。是が資本主義と極印打たれて、世界中の攻撃の的となつてゐる、その内から靜かに脱却し難いことになる。

前者の一つてある『おひかりよりの預りものとおもふ人』は、根本より出發點がちがふ、即ち勤勉も節約も己れの產物とおもはない。おひかりよりの惠まれものと思ふ。のみならず、更に遡つて此身もおひかりの預りものとする。若しも已れといふものがあるとすれば、それは大きな全體である。預つた此色身で惠まれた勤勉や節約の能率を高めて、それから結果のあつたときに、それを全體に返しておく氣持てある。決して自分のものと思はない、全體の己れのうちに足らぬ人があるならば分け與へ、僻け心があれば祈つてなをし、德を亡ぼさないやうに敎へ、其態度に供養をすることになる。家族はその道をあゆむ人に限られるからさわりがない。自分の慾望から出發するのでない爲めに、なまけることにはならぬ。おひかりのまに〳〵であれば、自然に勤勉と節約とが能く調うてゆく。此人格のある所、自然に周圍を光化する。よからぬ人情、險惡な空氣など次第に和らぎやさしくなる。己れの子を養ふと同様に、求道者へも供養する。道を外すときは、己れの家族をも養はない。『小さき已れ』を中心とするのでない。すべて『おひかりの預りもの』から出發終始する。これてあれば障りがない。のみならず、他の障りも除き得る。若しも新らしい法律が出來て、此『預りもの』といふ氣持を完全に保護する事が出來るならば、是は社會問題について色々の研究及運動があるうちの、最すぐれた理想的のものであるべきだ、あらゆる物質的の理想があつても、それが多くは權利思想よ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

り出るときに、又小さき己れより出るときに、大抵はまとまりがつかぬけれど、是は『おひかりよりの預り物』となるときにハッキリする。（今の唯物史觀のうちにも、此問題はまだ完全にはなつてゐないとおもはれる。併しこの方も新らしい法律の保護――新らしい制度の保護――がなくては完全になりかねるのであるから、此點に於て唯物史觀の扱はれることが、當然必要ともなるわけである。）

財物の集まる始めの狀態が、前に說明した通り二種あれば、自分のものと思ふての集りかたよりも、預りものと思ふての集りかたが、完全であることは明かである、そうして自分のものとして出發したのは、たとへ如何程人格者であつても、今の樣な時代此反動氣分のうちに不純なものがあつても大勢となつてある）常におそはれ勝ちになる。況んや人格的でないものは無論である、是はおそれても仕方がない。所謂資本主義は人格的であるものもまたないものも、主義が一つの弊害となつて、もはやゆきつまつてゐる。代るものが何かは知らぬが、資本主義が此まゝで永續するものとは思はれない。財物を持つ人がたとへ人格的であつたとしても、不安の狀態が段々に增して來よう。自分の物としてゐる狀態は、必して『おひかりの預り物』と建てかへる事が必要であるまいか。

建て替へるといふても、當分內容だけのこと、表面にはどうするわけにもゆかぬ。併し內容を建て替る人が增してくれば、革命は起らずにすむ。不純な革命は起りそうがなくなる。若し又理想の高いものであれば、おひかりと一つとなる。高い理想即おひかりなれば、そのまゝ此理想に渡せばよい。理想の預りものはまた理想の人が管理をさせねばならぬから、同時に前の預り人がその任に當ることにもなる。結局『おひかりの預りもの』として扱へば、それにふさわしい制度法律をまつて、玆に完全な預りかたとなるのである。此あづかりかたを宣光社といふのである。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

制度が此方面の事を滿足せしむるに足らぬときに、獨立して此理想を實現せんとする方法がないでもないその手近いものは寄附行爲の財團法人である。けれど是は只狹い範圍の經濟機能にすぎぬ。きまつた收入ときまつた支出、或は赤十字社とか愛國婦人會とかを始めとして、教育事業社會事業などの寄附行爲はあれ共、増加性ある生産的事業、時によると損をするかも知れぬ所の事業を、寄附行爲の財團とは出來ぬ（法律上）。私の預つてゐた田ノ澤鑛山なども、元より私のものではない。私の名で預つた爲めに、色々の困難と世間の心配をかけたものだが、つまりこれは、此まゝ『預りもの』だとする法律がないからである。利益があつても、今の會社では理想の爲めには支出が出來ぬ。私の知る或る大會社が、全く慈善の爲めて大きな無料診療所をこしらへられた。會社の利益で此理想の事をしながら、會社の帳簿には社長の賞與として出し、あらためて社長よりの寄附行爲として出さねばならぬ。理想の事をする爲めにも、正直に帳面に載せられぬといふ様なことにもある。であるから、獨立して現法律のもとに、理想的に『預りもの』を扱ふことは困難ではある。が又、その制度のみが出來ても、心持が出來てないと何の役にもたゝぬことになる。民業に移せば暴利を貪る、けれども官業はもうからない。よく生産して暴利を取らないのみならす、一切の爲めに預るやうな態度が必要である。之れを宣光社は祈つてゐる。

二種の財物の集りかたの外に、今一つ別のものがある、それは宗教的のものである。淨財の集りかたてある。

働いた結果がある、それも勿論淨財である。今の所謂寄附勸進は大方は不淨財でなりがちである。出さすものも出すものも、おひかりに觸れぬものが多い。是に比しては働いた結果は清淨であるといへる。併し嚴密にいへば、まだ淨財でない。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

昔し釋尊が市中を行乞してゐられた。川の端に米を磨ぐ女があつて、石段を上つて、跪いて釋尊にお願ひした。

『尊き御方。妾はお供養をさせてもらひたい。しかし何ものをも持たないのをどうしましよう。今僅かにそこに持つてる米も皆主人の預りものであります。たゞ…………。(フトさきほど磨いた磨ぎ水の流るゝを見て)あの磨ぎ水のみは妾の自由にすることを許されましよう。若しおしかりなくばあの供養を受けたまへ。』

『よろしい。それはまことに浄い供養』

釋尊は、石段をトントンと降り、しやがんで、今しもまた女の磨いでは流す洗ひ汁を、鐵鉢で受けたまひ、女の合掌をあとにして精舎に歸られ、弟子連に今日の供養の極めて清浄なる事を説かれたときいてゐる。

是は女の菩提心、即心の清浄が主になつて物が從になつてゐる。其の己れのものとして扱ふことに極度の反省と謹愼を表してゐる處が有難い。此心、是世を浄土とする。

『おれが働いた結果だ。誰れに遠慮がいるものか』などは、世間が咎めぬといふだけの事。嚴密にいへば、色々の無理が含まれている。己れの技術で已れが儲けたといふことも細かく調べると人の助けが澤山に含まれてゐる。學資は無論のこと、兄の勉强の爲めに妹が學校へゆけぬ事もある。頭の良いのも子守始の正直な奉仕の爲めであつたかも知れぬ。誰れかの助けで親が出世し、その爲めに學校へ自分がやつてもらうたのかも知れぬ、などと數へたてると一つも已れのものはなくなつてくる。あづかりものといふ様な敬虔な心持ちがなくてはそこに澤山な無理がある。おれの土地からおれが取つたものだ、なども落付かぬ。こうなるときには、『働いた結果』丈では清浄とはいへぬ。

宗教的にいふ所の浄財は、人の心の浄まつたものでなければならぬ。已れの宗教的生活が、生活問題にと

ツクリと觸れて、他の生活を淨化する作用を持ち、人の心と生活に多量の利益を與へて、已れの爲めには何の要求もせぬときに、其人の心が淨まり、生活の根本についても邪見を持たないやうになつてくる。その上懺悔と感謝の念をもつて『一番よい事にお用ひ下さい』とおひかりに返す時、是はほんとの淨財である。こうしたものゝ集まることがある。釋尊の祇園精舍などを第一として、何れの地にも立派な敎堂伽藍が出來、また常住の所領、朱印地などが出來てある。此内には勿論不純なものも澤山あれども、何分か清淨な根底の含まれてゐるものである。或は政略的に建造したりすることもあるけれども、さすがに衆怨の的にはならぬ。東山の麓に大きな別莊があるとする、それには澤山な怨恨の石が投げられても、丸山公園をうらみ智恩院をのろはない。清盛の別莊であれども安藝の嚴島は、神社としてある爲めにさわりがない。若しも夢窓國師の入智慧がなかつたら、金閣寺や銀閣寺はたゞの足利家の別莊となつて、今迄殘る運命をもたぬかも知れぬ。只形式に佛を祭つてさへ、そのものを寺とし公共のものとする爲めに淨化の姿をなしてゐる、是が徹底的に淨化されるものなれば、その建物及財物の集まるまへに、それを扱うた人の心と生活がどれ程清淨になつてゐるか知れぬ。大きな敎堂が一切の上に建つてゐることになる。こうした働きは、徹底した『無所有』の姿を基礎として相手方を淨化するから始まるものである。

『無所有』と只字にかゝわつてはよくないが、眞におひかりと一つになつたものは、無所有の姿を忌む筈がない。それを囚はれた態度とか、片よつてゐるとか、いふのは淺慮至極である。釋迦も王宮より路頭に出た。キリストも旅衣袋一つより弟子に持たさなかつた。無所有は囚はれてゐるなど云ふのは、小さい我見の生活の標準にいふのである。何やら落付かない爲め辯解よりも出る。眞に物質のみに執はれず、小さき已れのみにかゝわらぬ清淨な氣持の動きは、當然の結果一度は必らず無所有になる。そこへ澤山な淨財が集まつ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

たとしれも、それはたゞおひかりのあづかりものである。これは勿論宗教的の名前にて保管される。指月禪師の言葉であつたか、寺のものは求道者に與へよ、已れは常時托鉢せよと住職の身分に注意をした。おひかりのを已れの物とせぬやうに。

一燈園もそれを常に必得ねばならぬ。一燈園生活は原則としては、園でおまゝをたいてはならぬとかね〴〵申した事がある。來客病人老幼者、及世話する當番の人、又は許されたる供養の時などこそ、園の供へものをたべてよい。然らざるものは朝から托鉢して、口を托するが當然である。清淨なものは粗末にしては勿體ない。一食一汁も大切にせねばならぬ、是は皆『無所有』を基礎として、そこから湧き出たもの、たましひの血であるからである。

『無所有』の祈りから湧いた淨財が、宗教的に保管さるゝとき、始めは已むを得ず私人の名であり、段々に法人化し、遂には何宗と公にされてそれ〴〵の法律にあてはめらる。何れの宗教も此經過をとつて成立している。

『無所有』の人格を信じて供托した淨財が、經濟的に増加性を持ち事業になるとき、矢張私人の名義にて經營をする。此場合その所得を全然あづかりものとして扱ふとき宣光社である。おひかりと一つになつてゐれば、內容は無所有と一つであるけれども、扱ふ人が餘程の人格者でないと、此內容を他人は信じきらぬ。といふても、今の法律では方法がない。若し一つに合同することによつて他人の躓くを恐れるなら、全然人の名義にするより外はない。すべてが他人の名義とせねばならぬときには、出家道と在家道とが二つに分れる事にもなる。

『無所有』から『預りもの』までは、かくの如く中々に容易でない。茲に宣光社の苦心がある。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

社會事業への歩み

松下吉衛

天香さんが北海道へ行かれる途次、何か私にお打合せになることがおありと見え、麴町の○といふ托鉢先で、九月一日の午後まちあはせるやうにとのことでしたので、同日早朝郷里をたつた私は、午ちかく東京につき、丁度、電車の中であの大震にあつたのである。

天譴か否か私は知らない、たゞあまりにもひどい慘虐を見せられた。燒死したもの、壓死したもの、溺死したもの、無算。何事の狂亂ぞや、剰へ、焦土化せる王城の下、同胞相殺戮するの醜狀を暴露するにいたつたとは！　ゆるみがちな私もさすがにグッと答へた。まゝよ猛火の洗禮だ。罪よ穢れよ淨まれ！　このやくざものでも何かのお役に立つやうなら、と念願をこめた。師、長老、畏友、同人みな起たれた。東京一燈園の震災に對するいのりが、かくて、眞劍に行ぜられることになつた。震災救護は社會事業の內容をおのづからにとつた。

考へれば私等の間に於ける、俗諦にあつての俗諦成就の願（治生產業に即してのいのり即ち宣光社）をどう具現すべきかについての練り合ひも決して短い日月ではない。もし選べるなら社會事業こそその最も無難な第一歩だらうとは年來私の信じてゐたところである。だから、私等の此度の社會事業への歩みは、偶然であると共に必然であるといへる。その歩みは、よし遲々たりとも、シッカと大地を踏んで、歩一歩と進めたく

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

思ふ。

社會組織の改革は、もとより、決定的價値である。だが如何に理想的の改革が行はれるとしても、社會性を欠如せるもの勞働能力を失へるものは常に殘存すると見ねばなるまい、假例その數は激減しやうとも。社會が一體であり自他もと不二の見地からすれば、かうした人達の殘存は必然に社會各人の連帶責任でなければならず、これを自己の當然つぐなはねばならぬ罪業なりと自覺して、動もすれば顧みられないがちな彼等に敬虔に仕へる。これが私等の目ざしてゐる社會事業の本質であり、從つて又懺悔の爲の奉仕生活である。

本氣の震災救護はこれから

『もう春でないか、震災以來半年以上にもなつてゐる、今更救護でもあるまい。市でも事務局でも罹災者の世話は間もなく打切りださうだよ。』

東京驛に行く、銀座を歩く。人々の眼は服裝は携帶品は、かうさゝやいてゐるやうである。でも事實の直視は私等に別な世界を展開せずには措かぬ。最近、私等の手になつたバラック現場調査の數字をしてあるがまゝにその眞相を語らしめよう。(私等は、今、震災救護打合會調査連絡部「内務省社會局内にある」に働いてゐる。)

大集團バラック老癈者調査(大正十三年一月廿五日現在)

老者(六十歲以上の考衰者にして勞働能力なく且扶養者をもたざる者)	三五七人

癈疾者（內科的疾患により勞働能力を失ひ扶養者をもたざる者）　六九人
不具者（外科的疾患により勞働能力を失ひ扶養者をもたざる者）　二六人
計　四五二人

大集團バラックは東京とその附近に、日比谷（收容人員六、一三〇人）九段（收容人員二、五二八人）、芝公園（收容人員五、六二一人）、芝離宮（收容人員四、六一七人）、上野公園竹之臺（收容人員五、〇八六人）、上野池之端（收容人員四、七八六人）、明治神宮外苑（收容人員六、四〇〇人）、新宿御苑（收容人員九一六人）、千駄ヶ谷（收容人員二、二七七人）の九ヶ所ある。その總收容人員三八、三六一人の中、四五二人の老癈者があるのだから、百分比にすれば一、一八となる、即ち百人のバラック居住者につき一人强の勞働無能力者がゐる割合である。この割合で推すと、以上の外、各區役所々管集團バラックの收容人員約四四、〇〇〇人、社會事業團體及び個人經營の集團バラック收容人員約三、〇〇〇人、それに散在バラックの居住者概數一〇〇、〇〇〇人、計一四七、〇〇〇人の中には一、七〇〇人からの老癈者があるわけであるから、先きの大集團バラック內の四五二人と加へて總計二、一五二人の扶養者をもたない勞働無能力者が、この復興の氣橫溢してゐると稱せられる東京に存在してゐるのだ。

子供のことは、將來があるから世話しがひがあるとでも考へてか、わりにかまひ手がゐる。麻布の迷子收容所を見舞つた時きかされた話であるが、とりわけ女の子など、引受の申込が多すぎる程あるといふことであつた。

然るに此等の老癈者に對しては一日米二合の配給がある外、救護策はまだ具體的に樹てられてゐない。ル

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

ーテル敎會經營の『老人ホーム』が麻布市兵衛町に新設されて若干の收容力をもつてをり古くからある瀧野川の養老院大久保の鐵道青年會に向いくらかの收容力を殘してゐる外、何の社會的施設あるをきかない。

現場調査から歸つてくる調査員も調査員も『今日はかういふ婆さんに泣かれた』『あんな邪慳な同居人と一所ではあのぢいばあはいぢり殺されてしまふだらう』『養老院へ入れてくれといつてせがまれたが明日は取敢ず着物と懷爐を持つてつてあげなくては』などゝ言ふのを聞いてゐるとこのまゝには置かれない氣がする。

子供だつて、ほんたうは亦問題だ。私心や一時の氣まぐれから罹災兒童をだしにつかつて、やれ野外敎育の、やれ情操涵養の、やれ乳兒保護のと、鳴物いりのプロパガンダをしてゐる自稱愛生運動者は、そちこちの大集團バラックに行けば、甚だ容易に見出され得るけれど、眞に次代民のために憂へ、災禍から彼等を一日も早く救ひ出ださうと熱禱をこめつゝある者にいたつては不幸にして多く耳にしない。今、差迫つた問題として、小學校燒跡バラック立退きのことがある。震災直後のごさくさまぎれに將來を慮る暇もなく空いてゐるのを幸ひ、小學校の燒跡六十何ヶ所かにバラックを建ててしまつたのであるが、收容された罹災者としては、急にどこへ移轉するといふわけにも行かず、けれども學校當局としてもまた新學期を目の前に控へてゐるので一日も早く校舍を準備せねばなるまいし、神田區の十三校、京橋區の十校、日本橋區の九校を筆頭に、今尙、市內に五十三ヶ所の小學校燒跡バラックが殘存してをるが、その中少くとも四十三ヶ所は、早晩撤癈されねばならなくなつてゐる。

最近(二月二十二日)、私等の同人が手分けして調査した結果によると、小學校燒跡バラック五十三ヶ所の總建坪一三、八〇一坪、その收容人員一六、二六四人、世帶數四、六二六であり、學事關係についていへば

災前在籍兒童六二、三九五人あつたものが現在出席兒童三二六、〇七二人に激減してをり、校舍に使用のバラック建坪は一二、〇〇七坪三に過ぎないし、授業も通常のもの二四校、一部分二部敎授のもの一九校、二部敎授のもの九校、三部敎授のもの一校といふ數字になつてゐる。

京橋區のやうに新たに埋立地が出來たところでは、移轉するのに何の無理もないが、淺草區あたりでは、罹災者を强制的に撤退させ、バラックを釘づけにしたので、紛擾を惹起してゐるさうである。學校敎育の等閑に附すべからざると共に、罹災者から住居を奪ふことがどんな結果をうむかも考慮せねばならないから問題だ。某事務官から聞かせてもらつたのであるが、臨時震災救護事務局では、五千戶の公營住宅の建設を市と府に、既に委託ずみになり、更に一萬戶の增設を目下計劃中の由であるから、これが竣工になれば、住宅難は餘程緩和されもしやうが、それまでどうしたら無難に事が運べるか？　市の學務課は勿論、保護課、學校當局とも、この頃では、ずゐぶん、このために頭腦を惱ましてゐることゝ察せられるが、私は、特志家の閑地開放による外、問題を解決する道はあるまいと信ずる。既に震災當時から自發的に其宅地を開放しバラックまで建てゝ罹災者のために盡されてゐる奇特な方を幾人か數へ得ることを私は東京市民の誇とするものであるけれど、何千坪何萬坪といふ宅地を市內樞要の地區に所有して居るもの（その中には震災にすら殆んどあつてゐない仕合せものさへある）がまだ〳〵四十人や五十人はあるのであるから、せめて三人でも五人でも罹災兒童罹災學校の窮狀に同情して奮起してくれ、皆、弱り切つてゐる此の問題に解決の曙光を投げ與へられるならどんなにいゝだらう。私等は今このいのりのために走りまはつてゐる。

一方、バラック生活の子供がどんな狀態におかれてあるかも知つていただきたい。同人の何人かは、先日來、この調査に沒頭してゐるのであるが、二月末日までに完結したのは、芝離宮バラック（收容四、六一七

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

人）と明治神宮外苑バラック（收容人員六、四〇〇人）とである。その結果を示せば

芝離宮バラック兒童調査

數へ年一つより十五才までの兒童	一、四九二人
內	
本年度入學すべき兒童	一〇三人
日々通學せる兒童	五九八人
長期欠席もしくは不就學兒童	四六人
異常兒	一人
病兒	一〇六人

明治神宮外苑バラック兒童調査

數へ年一つより十五までの兒童	一、九〇一人
內	
本年度入學すべき兒童	一三四人
日々通學せる兒童	六六五人
長期欠席もしくは不就學兒童	一〇一人
異常兒	一人
病兒	一〇二人

芝離宮バラックにしても外苑バラックにしても、長期欠席もしくは不就學の兒童數は注目に値しよう。災

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

前に於ける細民集團地區のものより高率である。

又失業調査は實に困難で、いづこの機關によつても信憑すべき報告は未だ發表されてないが、私等の同人が御世話してゐる二三の勞働者宿泊所の狀態から推すと、十二月一月に比して、この頃は一般に仕事がズット減つて來てゐることだけは爭ひやうのない事實だ。毎日々々アブレがあまりあつて見てゐられないものだから、日比谷公園の『憩の宿』では、勞働の地方移動を企てゝ、小田原方面に既に數十人を送つたさうである。

配給による救護はもとより一時の間に合せ療法にすぎぬ。今にして失業者救濟の根本策（例へば工場主に對して雇傭者何人か毎に一人の失業者を引受けしむる勞働法規の制定）を樹てるにあらざれば、所謂産業豫備軍の激增を來し天下混亂の禍根をなすにいたるやも知れぬてあらう。警視廳の調査に依つても、定職なく轉々雜役に服しつゝある所謂自由勞働者數は少くとも三萬を下るまいとのことである。同人の幾人かは目下テイピカルな細民集團地區を選んでその徹底的調査に從事してゐるが、細民の間に、實生活の體驗よりして純乎たるアナルコ、コンミユーニズムの思想をいだいてゐる者の意外に多いのに驚いたと、ある調査員は語つてゐた。（更に國際的に觀望して我が國の經濟的行き詰りに想到する時、かうしては居られない氣がする）。

ソロ／＼お祭り騷ぎの救護團は顏を引つこめつゝある。本氣の、眞劍の救護はこれからだと思ふ。

バラツク、セツツラーの手記より

『事務の方ア…………………』女の悲鳴だ。しらべものがあつて、つい晩くなり、同人の一人と火種もつきさうになつた火鉢（とはいひ條、配給の釜を箱にいれたにすぎないもの）を圍んで、何くれとない話をしてゐた私は、思はず聽き耳を立てた。時計は一時をよはつてゐる。この眞夜中に…………と、いぶかつてゐると

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

續けざまに、又、けたゝましく聞こえる。しかも、こちらへ逃げ走つてでも來るのか、段々聲が大きくなるやうだ。私は同人と前後して戶を排して走り出ずにはゐられなかつつた。聲は確かに十四號舍と十五號舍との間の露路からである。露路の入口の井戶のところまで行くと、仁王立ちになつてゐる男が、その女房とも思はれる女の、繃帶を施した頭髮を、むんづりつかんで引きづつてゐるではないか。私は、すぐには、近寄れなかつた。權幕があまり烈しいのと、あたりの光景が凄慘すぎるので、さすがに、ためらひを感じたのであつたらう。最寄のバラックから三五のものが間もなく出て來たので、一所に男を取り押へて、ともかくも女にのがれてもらつたのであるが、女はこの眞夜中の寒空に素膚に乳呑子を脊負つて下駄もはいてゐなかつた。

誰かが駐在へ走つたと見えて、やがて、警官が來てくれたから、私等はその男を警官に渡した。男は、私等の同人の預つてゐる中部バラック事務所のぢき東隣りの一室に、つい、此の間、條件づきで入つてもらつた酒癖が惡いために新宿御苑のバラックを追はれて來たといふ葬儀人夫の某であることがわかつた。彼の部屋へ警官について入つて見ると夜具やらボロやら足の踏入れ所もないまでに散らばつてゐる中に呑み殘しのコップの乘つてゐるチアブ臺があつた。もうどこにも行き處がないといつてすがられたものだから人情まけがして、絕對に禁酒するといふ約束で入れてあげたのだと同人からきいてゐたが、やつぱり酒は止められないものか。

ふと、戶外に泣きじやくる子供のゐるのに氣がつく。六つかそこらの女の子だ。手に大人物の下駄をさげてゐるてはないか。いたはつてたづねても

『かあちやん〳〵、とうちやん〳〵……』といふ外、言葉がきかれない。私は、丁度そこに來あはせたKと

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

いふことの自治會の幹事に、夜明けまで休ませてくれるやうにお願ひして、その子をつれて行つてもらつた警官に求められて、事務所のカードを繰つたら第○號第○○室S・I四十九才、職業葬儀人夫、妻H子三十二才、長女F、七才、長男C二才とある。私の讀むのについて、警官はかぢかんだ手で覺束なげに鉛筆を走らせた。

まだ何かブツ〳〵いつては起き上らうとする彼の男を、警官と共に、おどすやら、すかすやらしてどうにか蒲團にもぐりこませて、「子供の家」に歸つた私は、同人のとつておいてくれた床に入りながらも、彼の男はじめバラックの誰れ彼れに對して、私等として何をしてあげればよいのか、どうおいのりすべきであるのか、ちからの足りない自分を省みて暗い氣持に襲はれずに居られなかつた。

『どうおいのりしたらよいか』については、××バラックの事務所に托鉢してゐる同人に、先夜も、泣いて訴へられて、私はほと〳〵こうじ果ててしまつた。

『いくらいのつても、いくら、體ぐるみ心ぐるみ生活ぐるみ打ち込んで行つても、どうにもならないではないか。一體、どうしたらよいのか？バラックの人達は、みんな、悶えてゐる、惱んでゐる、どこに行くのか何して生きたらいゝのか惑つてゐる。慰問だ、配給だ、社會奉仕だ、精神復興だ！　そんなもの何になる？！自己欺瞞の化の皮をひんむいて、人と人とが、ほんとうにひつたり一つになるには、一體どうしたらよいのか？一言でいゝから敎へてくれ！どつぞだから言つてくれ』激情家のT兄はかういつて、私に迫られた。

九月一日、親しく震災にあひ失ふべかりし不思議な命を生き存へた私は、睡眠時間も最少限度にきりつめ叶ふ限りの御奉公を念じては來たものゝ、果して何程のはたらきを成し得たか？省察は自責を强ひる。かうした私に何で權威ある答が兄に對して出來ようぞ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

築地本願寺の方が、お困りの罹災者に衣類を配給したいから、何百枚でも傳票をきつといてくれと、外苑の中部事務所に申込んで來られた。受付にゐた私は『その配給にはどうぞ私共を手傳はせて下さい。一枚の襦袢でも私共が先づ拜んでその拜みを品物と一所にお配りしたいから』と答へた。これまで種々な團體からの雜多な品物の亂給によつて人々が虔しみをかき亂され、嫉視し合ひ、物が少しばかり增えたことが反つてたましひを害ふ結果になつてゐる實例を見すぎてゐるので、配給の申込みにあふ毎に、私はハラ／＼させられる。聯合婦人會から外苑バラックへ特にまはしていたゞいた九百枚の蒲團をお配りする時など、神佛にお供へする心で扱はしてもらつたのだけれど、四布がどうの三布がどうのと文句をいふ人が多く、心から感謝するものは十人のうち一人か二人もあつたらうか？

先達は、配給の衣類のあまり上等でないのが少したまつたので、「子供の家」の前に莚をひろげて誰にでも持つて歸れるやうに『こんな品でも失禮でなければ』と掲示したところ、初めは、近所のおかみさん方が三々五々つゝしみを忘れないでえりあつてゐたが、やがて數名の者が走り寄つて來るや急かにあつちこつちに押し合ひつゝき合ひが始まつたと見る間もなく、衣類のひつたくりくらが隨所に起り、足をふまれて叫ぶもの土足のまゝ「子供の家」へちん入するもの、果ては「子供の家」の備品である藥罐皿子供の着物夜具までもさらつて行くものさへ現れて、同人がいくら制止してもきかばこそ、泣かぬばかりに歎願して漸く歸つてもらふことが出來たまでには可なりの時を要した。

『與ふる者のよろこび！』などゝいつて、すましてはゐられない氣がする、ほんたうに。

三十前後の職人風の男が中部事務所へきて『わたしとこの同居のぢいさんが、しよつちう咳のし通しで、

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

痰はそこらへ、はき散らす、夜もやかましくて寢られず、實に困つちまふんです。あれは肺が惡いにちがひありません。どこかへ移してくれませんか。うちには子供もあるんですし……』

無理からぬ訴であるやうなので、早速、調べてみると、赤十字診療所のみたてゞは、おぢいさんの病氣は喘息だとのこと。その舍を受持つてゐられる同人にたづねたら、おぢいさんのゐたところへ左官さんの一家をおいれしたのだといふ話。カードをそちこちくつても、どの舍もギッシリつまつてゐて、どうにも移しやうがない。無理算段して比較的小人數の部屋に移つてもらつてみてからが、それなり問題が解決するといふ筋のものでもなく、私は左官さんに歎願する外ないと考へた。

『おつしあることはご尤な要求にちがひないので、私等としても出來るだけの便宜は計つてあげたいのですが、ご存知の通り、毎日々々何十人といふ入舍希望者をお斷りしてゐるやうな始末で、今急にどうしやうもありません。それに診療所のみたてゞは、おぢいさんの病氣も決して傳染性ではないといふことですから、一つ我慢してくださいますまいか、ほんとにすまないのですが』

『――――』

『おぢいさんをお移しゝても、そのまゝ空けておくわけにはいきませんし、今度またどういふ方をお願ひするかも、わからないのですから……』

『困つちまいますね。』

『………あなたにはお年寄はないのでしたね。』

『エ、、片親あつたんですが、地震でなくしちあいました。』

『さうでございましたか。………いかがでせう、ご回向のつもりで、あのおぢいさんの御面倒をみてあげ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

なさつては、おぢいさんも頼る方がないのですから』

左官さんは、やがて、何かぶつ〳〵いひながら歸つていつた。が、私は私のする筈のことをしてゐないやうな氣がしてその日は一日焦立たしかつた。

このバラックでは管理者からのいひつけで、六疊一間に五人平均にはお入れせねばならないことになつてゐる。何の下葺もないトタン屋根の、床といへば地面にぢかに丸太をおいてその上にけづりもしないエゾ松の薄板を列べたにすぎない四間に三十間といふだゞつぴろいバラック。無双窓の板が皆狂つてしなつてゐるので締めても明けても隙間は同じこと、板壁とトタン屋根との間は五寸から一尺もズーッとすいたまゝである。つい此の間、帆布で間仕切りが施されたが、それまでといふもの荒繩を張つてそれに着物や莚ゴザなどをかけて僅に仕切りの印としてゐたに過ぎないので、バラック一舍四十室に五十六十もの、これまで緣もゆかりもなかつた家族が雜然と住居を共にしてをり、困窮者でも一人一日米二合の配給を受けてゐるにすぎないのであるから、雜多な事件——その中には手の下しやうのないこんがらかりのものがある——が日々もちあがりがちであり、その度に事務所に訴へてはこられる。今のなどもその一つの例にすぎない。

どうしたら、かういふ人達にほんたうに安立してもらへるのだらう？　それを願じて、かうしてバラックに同人と共々セットルしては來てゐるものゝ、一體、何が私等にしてあげられやうか？

あまりにもひどい人生の事實だ、生の營みのためのこの血みどろのせめぎ合ひを直視せよ！

言葉通りを信ずれば、つい向ふの共同便所に用便中、母親に捨てられたといつて、助けを求めに來たこの

間の病婦はどんなになつてゐるか知ら？　大袈裟に人夫募集をして何十人かをつれて行きながら一人にも滿足な仕事を與へられなかつたので大問着になつてるといふ二號舍の事件はどう解決がついたらう？　無理やりに私も賛助員にさせられてゐるので招かれて顔出しをした先夜の代表者會で、あれしきの配給についてのいきさつも煙管と下駄のなぐッ合ひまでいかなければ納まらなかつた程だ。大した間違がなければよいが？　奥さん風の婦人が闇に乘じて事務所の炭を抱へて行かうとする所を巡警の兵隊に見咎められて、涙ながらに告白した話をきけば、ほんとに人は裁けないといふ氣がする。その婦人の舍では代表の申合せの結果、共同貯金を積むために配給の炭は賣つて了つて誰にも分たない方針をとつてるのだといふ。二三日前には、隣室の若い女に切りつけやうとしたとかて、こゝのバラックを追はれた會社員風のクリスチアンのことで大分騷がしかつた。…………かうして例を擧げて行けば限りなく續かう。

もう、あたりまへではダメだと思ふ。型つかひの愛語ぐらゐで何がどうなるか？　慰問、配給、説敎！しないには優る場合もあらう、したい人にはさせて置くもよからう。だが、問題は餘りに深刻すぎるシーリアスすぎる。生命を賭してのいのり、生活ぐるみの働きかけは、どう具現さるべきであるか、私等は根本から考へ直してみねばならない。

——一三、二、二四——

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

テントから

中西重一

麹町元衛町内務省社會局の裏門近くの空地に地方職業紹介所と隣接して二つのテントが張られてゐるそれは震災救護打合會調査連絡部のオフィスとそしてそこに奉仕してゐる一燈園同人の宿所である。

去年の十一月初旬であつた、神田基督教青年會から、テントやボールとそれから諸道具を借りてきて打建てたのが二つのピラミッド型テントであつた。それが今のハウス型テントとなり、床が張られクリストの畫像が、かかげられるにいたる迄には可成の時日を經過した。

オフィスには社會局から拜借して來た、五つの机と一つの書棚が並び、中央のイロリには炭が赤々と熾り藥鑵はシユン／＼と音を立てゝゐる。

諸調査、調査材料整理、謄寫、委員會速記、議事錄調製、發送事務等、松下さんを中心に、全くのノン、ホリデーで今日迄ぶつ通して來た。

このテトンが産み出さんとするところのものは、單にこれ丈けの仕事ではない。

東都に於ける同人の祈りは、吾々をして、「なにかしら、祝福されたものの産れむとする豫感」そのまゝなる寧日なき眞劍な活動を繼續せしめてゐるではないか。このテントも「産れ出づる喜び」を當然に分たるべき日の必ず到來するであらうことを私は信じ且祝福する。

○

信心うすき自分にとりては、社會調査の如何にむづかしいかが體驗せられた。

誰かゞ言つた、「耳をおほひ眼をつぶつて飛び込むんだ」を眞實と思ふ、けれど悲しい哉、自分には未だ眼がつぶれない、耳がおほへない。

「一體君等は調査して、どうしようと言ふんだ。」「調査したら何を呉れる。」「大きなお世話だ、宗旨なんかきいて、死骸の始末迄はつけて呉れまいに。」とも言

はれた。

　Ａ細民街の陰慘な生活、瀕死の床に在る一人ボッチのお婆さんの寂しい姿、或はＳ公園に居る吾等の兄弟朝鮮人の影のうすい、おど／＼した姿、わめく聲、呪ふ聲、笑ふ聲、泣く聲。

「あゝ、夢見は惡い。」

　物質が限界付ける右と左の世界は到底一つにはなり得ないものだらうか？

○

　それは「全東京集團バラック居住狀態調査表」が將に產れんとする十一月下旬のある朝であつた。同人に對し、松下さんは眞劍な而も謙讓な態度で自己の不德に因る同人間の不和を心からあやまられた。私は、少く共自分は濟まない思ひをさせた一人である、と思つたから一言二言あやまらしてもらつた。その時松下さんは、唯々「自分に德さへあるならこんなことは……」と云ひながら泣きくづれられた。その瞬間私の心の全部は松下さんの涙でみんなと一つにとけ合つた。

　私も心から泣きぢやくり乍ら「私です惡いのは、何卒お許し下さい……」と松下さんの肩にすがつて嗚咽した、そして皆さんと握手した、ほんたうの心と心の握手を。

　おゝ、涙の洗禮！

　私はこの刹那の心を永遠に失ひたくない、さう出來たらどんなに幸福だらうか。

○

テントから眺めた數字の東京市

○震災前東京市人口	二百四十九萬九千人
○現在人口	百七十萬人
○罹災者現住人口數	九十六萬四千人
○全市受給者數	二萬二千人
○集團バラック	百十ヶ所
○集團バラック居住者數	八萬九千人
○集團バラック內老廢者、不具者數	一千二百人

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

○全市要救助乳兒數　五千二百人
○結核患者數　十五萬人
○傳染病患者死亡數　七千人
○自由勞働者數　三萬人
○失業者數　九萬人
○罹災兒童數　十五萬三千人
○迷兒現在數(三收容所)　五十五人

○

吾々のユニホームは諸所方々から戴いた古洋服で千種萬態である、米國から來たセーラーの作業服が上半身をつつむガウンである。こんな姿で步き廻ると、時折り玄關子から手嚴しい門前拂を喰らはされる、身分證明書を見せろ等と言つて。

十二月も暮に迫つたある日の午前だつた、天香さんが、思ひがけなくも、一人でコッソリとやつて來られた、天香さんにはテントは初めてなので、あちらこちらと色々さがされたらしい、そして隣の役所の何處かで可なり手ひどく「コラ此處はお前等の這

入るところではない」などと浴びせかけられたらしい。

「これでもな、相當な身形をしてゐれば、あんなこと言はれずに濟むのやけど……」と言ひ乍ら苦笑せられた、天香さんに接すること少なき私には未だ嘗てこの時程人間らしい師を眺めたことはない、懷かしく思つたことはない。

そうだ、私にも無條件に兜を脫ぐことが出來たらな……。

○

一月十五日未明の激震にもテントの中では誰一人として床から出ようとする者もない、夜着の下から「大部大きいてすなァ」の聲が聞えるに過ぎない。その筈だ、地震に對する金城鐵壁とは安全地帶に建つてゐるこのテントのことだらうから。地震よりもテント生活者にとつて難物なのは風と雨とそして雪である。風の強い雨の日などは、恰も暴風に遇つてゐる木葉舟の樣な感がする、雪の日には冷藏庫そのま

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

ゝてある。一月のある雪の日、府の神尾社會課長が「どうです、雪のテントは……」と笑ひ乍ら這入つてこられた、そしてイロリにあたり乍ら澁茶を啜つていろ〳〵語して歸られた。

靜かな雪の日の午後の茶話閑談！　テント生活にもまんざらでない味もあるにはある。

○

私共の食堂は市營の神田食堂である。朝食十錢、晝と夕食は十五錢、一日四十錢也だ。然しその倍額を一日の費用として供養されてる吾々は、毎日の入浴、通信費、調髪費等に事缺きはしない、同人の手には時折新刊書があつたり、新らしい萬年筆がシースにはさまれてゐることもある。

吉田さんが郷里にかへられる前の晩だつた、四五人の者はテントのイロリを圍んで心ばかりの別れの宴を開いた。小竹さんのお父さんの御供養で炊事道具は完備してゐる。鍋にはおいしい薩摩汁が湯氣を立てゝ居た。話は盡きない。テントの夜は靜かに更けて行く、……岩崎さんが、割箸を振り乍らコンダクターの役割を演じた。もの淋しいメロデーが續く。

「…………

またあふ日まで、またあふ日まで、

神の守、汝が身を、離れざれ、

…………………」

天井の丸窓からは月光が寂しくさし込んでゐた。

九月來吾々の標語は「共にこの冬を」だつた。然し吾々は、それを變更することを許されたく思ふ。九月一日を振り返へれば既に半歳以上の過去であり、總ての記憶も夢の樣に淡くならむとしてゐる。今は麗かな陽の光が、和やかに焦土を照し初めたではないか。春だ、春が來たのだ！

だが、罹災者の心には、いつ春が訪づれて來るやら？「共にこの冬を」の標語は書き直されねばならないだらう。

—二、二五、社會局内テントにて—

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

冬の日の光（ナポリ日記のうちから）

藤井悌

乞食（一月二十日）

けふもベルリッツ語學校の歸りに、いつもの通りサンタ、ルチアの海岸に行く。日の光がもつたいなくて帽子を脱いであるく。いつそ裸かになつて、この土堤の上に寢ころんで、存分この光を浴びてみたいと思ふ。風はそよともせぬ。海は外力のためではなしに、單に絶對の靜止といふことが許されないがゆゑに、その微妙な振動をつゞけてゐる。或ひはまた、あまりに柔かな、あまりに優しい心持を、たゞひたむきに默つてゐたのでは現すことができないからである。そしてこの限りなき海の振動の一つ一つに、日の光が滴り落ちて瞬いてゐる。ヴエスヴイオの山も、けふは此の平和な景象を傷けまいとして、つゝましやかに細い煙をあげてゐる。煙のすゑはおのづから霞のなかに溶けこんでゆく。

土堤の上には勞働者ていの人たちが、三人五人と一かたまりになつて、日なたぼつこをしてゐる。なかには釣を垂れてゐるのもある。水が透きとふつてゐるから、魚の悠々と遊んでゐるさまははつきり見えるけれども、なかなか釣れない。はだしのスクニッツォ（ナポリ名物の浮浪兒）が、サンタ、ルチア門の舖石の上にごろりと寢ころんで、密柑を丸かぢりしてゐる。

向うから子供を抱いた若いお神さんが來た。穢ない着物をきて、靴下なしで口のあいた古靴をはいてゐるが、晴れやかな顏をして子供をあやしながら來る。私が優しく見まもつてゐるのを氣づいて、その女はつか〳〵と私の方へ寄つて來た。そして俄かに顏を曇らして錢を乞うた。思はず私は拒絶した。女は執拗に私の

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

あとについて來てせがむ。私の心は妙に頑なになつてしまつた。しまひには、おし默つてさつさと歩き拔けたので、女もとうとう諦めてぶつぶつ呟きながら去つた。

この事があつてから、私の心はとみに重くるしくなつた。海に漲る日光も、却つて限りなき空虚の感を誘ふに過ぎない。少年の頃しば／＼私を襲うたあの眞晝の寂寥が、今ひし／＼と迫つて來る。なぜ私は先刻からの滿ち溢れるやうな心持の中から、氣輕に二錢銅貨の一つをあの女の手に握らせることができなかつたらう。それは其の際の最も自然なしわざであつたらうに。思ふに其の瞬間わたしの心は、もと／＼乞食ではないらしいあの女の、私を見てからの突差の出來心と、作爲のある憐れつぽい表情とに對して、かすかな反感を覺えたのであらう。それから後は、ひとたび閉ぢた心は暫くの間自動的に縮こまつて行つて、あの拒絕を押し通させねばならなかつたのであらう。悲しむべき人間の心、この心ゆゑに彼は常に平和を失つて步くのである。

誘惑（十二月二十六日）

けふは珍しく雨が降る。午後ちよつと買物にヴイア、ローマへいつた。穢れ古びた服を着た十一二の子供が、とある菓子屋の軒下に立つて、ガラスごしに飾り窓のなかの菓子をぢつと見つめてゐる。彼はいつまでも動かない。菓子はいかにも好もしげに、誘惑的に並べられてある。あはれな子供、彼には此の菓子の一つを手にし得べき機會は永へに來ないであらう。かういふ情景は痛しくもわたしの心を刺す。寶玉商の店先に立つて、去るに忍びない女たちを見ても寂しい。いつそ唯の饑ゑの直接端的なのが、底に或る力を潛ましてゐるだけ、變に酸つぱいやうな惱ましさがない。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

天香師のメモから

B生抄

○

一つの最必要なことは
　禍ひの根をたつ事（生活に即して）
他の最必要な一つは
　一般生活の建設である（自然にかなふ）
前者は一燈園の祈る所であつて、
後者は宣光社の念願する所である。
　あらゆる宗教を前者で清めたい。
　あらゆる事業を後者で整へたい。
あらゆる宗教を破壊せずとも、それに新らしいおひかりとその生活態度をとりいれる。あらゆる事業を破壊せずとも、それに新らしいおひかりと經營振りとを取りいれる。
　今のあらゆる宗教のうちに、殘さるべきよいものが少くない。

　今のあらゆる事業のうちに、殘さるべきよいものが少くない。

○

久しい習慣は容易にかわるものでない、
しかし、かへなければ亡びてしまふ。
日新日々新でなければならぬ、
けれども中々新になりにくい、
　どうすればよいか？
漸改と頓更と、
いつの世でも此二つは流れてゐる。或は穩健の名によりて、又は革命の名によりて。

○

穩健では弱い、中々改らぬ、
革命では過ぎる、無理が何處かに出來る。
おひかりは右二者ともちがふ。
　前者は改め得る力がない。
　後者は血で血を洗ふことになる。
おひかりは、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

根強く改める力があつて、
少しも血で血を洗はない。
誰がわるい、何階級がわるいといはないで、誰れにもわるいことがあり、何階級にもよくないことがあると見る。
おひかりの子は、
そのわるい所を、己れの影とおわびをする。次ぎへ次ぎへとおわびの電波がひろまつてゆく。わびきり、それが生活及社會に及べば理想郷である。
よい所はのこされて、ゆるい處が消されてゆくとき、殘るは天國淨土である其てからは、おひかりて、足らぬ處にわれらの罪。
おひかりの子は、
いつでも、地下水行者である。地の鹽である。路頭の行乞兒である。
誰れをも合掌する、誰れのうちにも、おひかりはあるから。
常不輕三昧である。

○

死ぬまで、無所有無執着であれ、念々南無佛、南無妙法。
此こゝろもち、是いのち、
此身のもち方、是いのち。
此くらしかた、是いのち。
此いのちをはなれたとき是死。
此心、身、くらし方、これを人より人へとつたへ行くとき、燈々無盡、壽無量。是を行ずる人、是我友。一分行する人一度の友。おひかりの世界は此友等によつてまづおがみ出す。
いかに世がさわいでも、またあらそうても、我此土安穩、天人常充滿。
地上の人、つかれては來り、破れては歸る、此世界へ。
平氏より源氏に、北條に、足利に、
或は王政または幕府。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

資本主義より社會主義、それからそれへと流轉するとも、
　おひかりの世界は、嚴かに常住不滅也。

○

世から逃るのではない、執着せぬだけの事である。
無緣の慈悲は、おひかりに即して動く。又入店垂手となり、六萬行願となり、托鉢となつてゆく。
更らに出れば宣光社の様々のはたらきとなる。

○

何れにしても、捨身品。
　世間でなんといはれても、
　おひかりによつて光榮あり。
いつの世にも此むれ必要、
子等の知らぬ親心、
王者は識る、
霸心あるひと見る能はず。

○

霸者、勢に乗ず、しかも怯なり、己れの罪を數ふるに怯なり。
王者、勢によらず、しかも勇なり、常に己れを懺悔して、克已愼獨に勇なり。
霸者に就くは利の群也、
王者に從ふは道の人也、
霸者力をたのみ、
王者德をあをぐ、
日本の現在は、危い哉。
　霸をなさんにも力足らず自信なし、
　王者たるにも德行なし。
日本の今は危い哉。

一燈園生活問答

まつした

B。辻説法の日蓮聖人は、よく知られてゐるやうですが、身延の山奥にかくれて題目三昧におくられた聖人晩年の懺悔の深禱に至つては、餘り理解されてゐないのではないでせうか？一燈園の生活基調が『懺悔のため奉仕』といふことになつてゐますから、どうしても、破邪顯正の利劍を振ふといつた方よりは、わが身を『いたづらもの』とし『愚禿』とする行き方に、共鳴者が多いのかも知れません。

A。さうすると、一燈園では積極的な態度に出ることを避けるのですか？

B。絶對に積極的態度を否認するといふわけでは無論ありません、さういふ態度をとらせてもらふことが最善のいのりだと信ぜられる場合、猛然と立ちあがるに何の不都合もある筈はありませんが、私共の心身は遺傳や環境や教育等の關係からも、可なり害はれてゐて、人間の本性が私共の心身を通して屈折せずに具現するといふことは、事實上、稀有でせうから、下座奉仕の道を選ぶ方が、分相應だと考へてるまでです。

A。一燈園の人は好んで便所掃除をするときいてゐますが、そのためですね。

B。便所掃除が型つかひに墮したら救はれませんが、謙虚な懺悔心のあらはれとして私共は奉行してゐるわけです。

A。婦人なら兎も角、男ざかりの者の便所掃除は少の奇をてらふ氣味がありませんか？

B。立場々々で色々な御批評もおありだと思ひますが、罪をわびる者の下座の業であるといふ實感でやつて居ますと、別に問題はないやうです。便所掃除のやうなことを何の障りもなく落付いてやり續けられゝば、先づ一ト通り心が調へられた證據だと見られないでせうか？

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

A。その意味は、わからないことはありませんが、如何に下座の奉仕とはいへ、能力のある者が、それを働かさないで、自由勞働者のするやうな極めて單純な仕事しかしないでゐることは、天分を全うする所以ではないと思ひます。

B。所謂文化主義には無條件に賛成しにくいですが、文化そのものを否定する氣は私共にちつともありません、各人がその賦性を遺憾なく發揮し合ふことの許される『自由の王國』を渇望する情は決して誰にも劣らないつもりです。たゞ、私共は『自由の王國』を逍遙する前に『愛の淨土』を建設すべきではないかと考へてゐるのです。

A。といひますと？

B。天賦の性能を自由に發揮したいといふ欲求は、最も根強い欲求の一つだと思ひますが、とりわけ個性の權威に目醒めたといはれてゐる近代人にあつて、さうのやうな氣がいたします。文化は、つまり、この賦性發揮の結果に外ならないでせうが人間が完全に造られてゐないため、賦性の發揮を各人が自由にし合へば、お互の間に、多く、不和衝突鬪爭をひきおこしがちなことは私共の日常の經驗に徴しても明かなところです。この場合、自分の欲求を殺して、先づ他の人の賦性發揮に都合の好いやうに身を處する、これが先程申上げた『愛の淨土』を建設せんとするものゝとるべき態度だと思ひます。文化主義と宗教との別れは、『自由の玉國』への直通路と、『愛の淨土』を經ての迂回路との分岐點にあるのではありますまいか？

A。なるほど、一つの見方ですね。さうしますと、あなた方では、進化論をどう取扱はれますか？

〇表紙題字解説　弘法大師の眞蹟、大師が淳和天皇の天長七年の秋、信州の善光寺に參詣されし折、書いてさゝげられし『善光寺』と申す額の字に有之候。本月十五日より御會式がある筈なればその縁故に因みて掲げし次第にて候。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

愛と戀と

谷口雅春

M兄。有島氏の死には意外に思ひましたね。最初私は有島氏が自殺されたと聞いた時には、捨てゝも捨てゝもなほブルジョアの匂ひを脱し得ない自分の階級の存在は、プロレタリヤの勃興に道をひらくために、自已の階級の存在を否定し、その實現のために、自己を滅ぼされたのかと思ひました。私は少くとも有島氏の愛は(自他一體感は)かくの如き廣さまで到達してゐるだらうと思つてゐました。しかもその後の報道によると、有島氏はプロレタリヤのためでもなく、母堂や三兒のためにでもなく、全く自己のために死なれたのだと聞いた時、私は、再び、これある哉と思つたのでした。

有島氏の愛は、その家族をすら抱擁する廣さをもたなかつた。あとに殘るプロレタリヤがどうなるか、母堂がどうなるか、三兒がどうなるか――かくの如き考慮を容れる餘地すらなしに有島氏は『女性への愛』の完成のために死に趣かれた。

一女性への愛――有島氏は、『愛の極致に死す』と云ふ意味のことを書かれた――こゝに私は、人類をまよはす――聰明有島氏をすらまよはす――迷妄のあることを見るのです。

愛――と、戀――と、この二つは同じものではない。愛は開悟から來る自他一體感であるが、戀は無明から來る一體感である。私はこのことについて前著『聖道へ』の末尾『戀愛の理想と現實』なる一節に於て詳論した。如何に多くの迷へる衆生が、『戀』の美名の假面に於て、醜き『煩惱』にとらはれつゝあるか。戀は愛ではない『愛慾』なのです。

私はこの事を廣く人類に告げたく思ふ――私は『聖道へ』を書き終つてから、『聖道へ』が固苦しき論文の姿をもつてあらはれたので廣く讀まれないことを憂ひ、今は長い三部作『聖林』に筆を染めかけました。やうやく、その第一部が印刷屋で印刷中に有島氏の自殺が行はれた、やがて自殺の原因が『愛慾』で

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

あつたことを知つた時——私の深き懸念はいたずらでなかつたと思ひました。今、私はその三部作の『第一部』『神を審判く』を貴方の御座下におくつて批評を乞ひたいと思ひます。

『戀』はわれよしてあるが、『愛』はわれよしではない——私はこの事について『神を審判く』の主人公ユダに、『戀』と『愛』とをけざやかに區別せしめて云はせてゐます。表題『神を審判く』は、一見非常に不遜であつて、一燈園氣分を遠ざかること甚だしいと思はれるかも知れませんが、こゝに『神』と云ふのは、光のことではありません。ブルジョアの享樂的禮拜のための本尊神、愛慾を吾々に與へて吾々を迷はす本尊神、煩惱の根元たる『無明』の人格化であつて、愛の發現と共に自ら『審判かるべきもの』なのです。倉田氏の如きは吾々に煩惱を與へたる『無明』を『神』とし、神が與へたものを出來るだけ肯定しなければならない——と一見、非常に敬虔なる如く見え（かく見えるだけ他を迷はす恐れ多し）ながら、しかも、その實、『無明』の與へたる『愛慾』を肯定しなければならぬ、自由戀愛を肯定しなければならぬと頗る危險なる享樂主義を振りまはして、青年子女の思想を惡化しつゝあるのです。たゞの科學的無神論のわかる人があつても、『有神論』のわかる人がない。『有神論』はわかつても無明緣起のわかる人は殆どない。しかし救ひは無明緣起によつて、釋迦の如く『造り主』（釋迦の大自在天と云つた）を否定することによつてのみ來ます。——少くとも私は痛切にかく信じて、釋迦が造り主『大自在天』を審判いて否定した如く、『造り主』なる神を否定するために書いたのが、この『神を審判く』一篇なのです。私はこれを救ひの大願によつて、眞向から『無明』世界、煩惱世界の本尊神を打ち破るために書いたのです。その內容の思想的なること、現代創作界これにまさるもの少ないと思つてゐます。これ自畫自讚のやうですが、作者としてこれだけの自信がなければ發表しない方がいゝと思ひます。…………

まづは、ごぶさたお詫び旁、『救ひ』の共同戰線にやはり立たせて頂いてゐる足跡の通信てす。よばれるのは、書齋からでも呼ばれますから。天香さんによろしく。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

京都一燈園日記

高頭生

○二月一日　はれ

曉天の寒月が西に白んで、撃柝に明ける園の周圍には、寸餘の霜が地上に重い。木喜當番さんと濱村愚庵さんとが、宣光社へお出掛けなされた後の晝の食卓は、久しい病床から漸く離れられた野原健次さんと、典座子と、他兩參名の御夫人の方だけであつたが、ほんとに近頃の園は靜なものである。

○二日　はれ

此頃在園同人の數が大變少なくなつたにかゝはらず、諸方から托鉢依頼のお申込みが頻りに續くので、當番さん迄が毎日のやうに御出勤なされて居るが、とても應じ切れない。

○三日　ゆきのちはれ

濱村さんのお手をお借りして、中村屋さんから御供養の乾大根を漬ける。禪堂では高橋琴江さんが、寒いので手を赤くなさりながら、蒲團や枕のほころびを懸命に縫つてお出でなさる。大塚秀雄さん神戸より一寸御歸園。

○四日　はれ

横山朱鳥さんは越前の敦賀へ、野原健次さんは御靜養かた〳〵御郷里の信州へ御托鉢に、いづれも夕刻御出發なさる。今晩は節分の夜なので、夜のお勤め後一同お光の間へ集り、煎豆と大福餅を戴き乍ら隔意のない話に打興ずる。

○五日　くもり

當番さん初め皆托鉢に出て行つて了はれたので、園には典座子と、枕覆の洗濯に餘念もない浦岡清子さんと、樋口たかのさんの外に誰も居ない。時々樋口さんの勇ちやんが、思ひ出したやうに『觀自在菩薩』と、廻らない舌で繰返へされる外物音一つしない。

○六日　はれ

靜岡より田畑榮太郎さん御歸園。横山朱鳥さんも

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

敦賀より夜拾壹時過ぎに御歸園なさる。

○七日　あめ

肅やかな小雨がボツ〳〵と軒端を濡らして、二階から見下ろす京の街々は、墨繪のやうに煙つて居る。夕刻東京一燈園の同人八田勝三さんと御一所に、杉谷靜代さん、鄭しげ子さん、梶浦たね子さん御歸園なさる。

○八日　はれとき〴〵あめ

樋口作太郎さん久世郡寺田村より一寸御歸園。

○九日　くもり

矢野任光さんは東京より、中田一女さん、内田廣子さんは寺田村より御歸園なさる。

○十日　あめ

夕刻增淵幸之輔さん神戸より御歸園、夜、天香さんがお見えになり、お勤め後敎育問題に關するお話、及び英國が露國の勞農政府を承認するに至れるまでの經路などについて御高見をお述べ下さる。

○十一日　はれ

梶浦たね子さん、内田廣子さんは寺田村へ、增淵さん、尾崎さん外御一名は神戸へ御托鉢にお出でなさる。今晩も天香さんが御歸園、勝淳さんの御母樣の十三回忌の御看經をお濟ませなされた後、社會事業としての托鉢と、一燈園の純粹の托鉢との區別についてのお話があつた。夜更けてから南坊城良夫さん寺田より一寸御歸園なさる。

○十三日　ゆきのちはれ

雪霽れの東山には金色の朝日が輝つて居る。寒いけれどもほんとに氣持の好い日である。住田蓮車さんと東海林源光さんとは、天香さんのお供で寺田へ中田一女さんと立山春子さんとは東京へ、德永たわ子さんは黃檗へ、いづれも托鉢に出でなされ、三上和志さんは舞鶴より、赤木嘉子さんは靜岡より御歸園なさる。

○十四日　はれ

蓮車さんは寺田より、倉澤無水さんは北白河より高橋琴江さんは黃檗より寺田を經て御歸園。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

○十五日　くもり

灰色に低く垂れ下がつた雲の間から、雪を含んだ風がうなりを立てゝ吹き過ぎると、靈鑑寺の讀經の音が斷續として流れて來る。寒さが泌々と身に迫るやうな日である。東海林さん平田より御歸園。

○十六日　はれ

中對まさ子さん岡山の禁酒會へ托鉢にお出でなさる。

○十八日　はれ

濱村愚庵さんのお力をお借りして、宣光社より澤庵漬を運ぶ。八田勝三さんは神戸より、山崎壽さんは寺田より、いづれも御歸園なさる。

○十九日　くもり

禪堂の前の明地て、薪割りの斧翳してお出でなさる當番さんの傍には、愚庵さんが新しい傘に筆太の名前を入れてをられる。暖い正午前の陽はお二人の額に汗を滲ませてをる。

○二十日　はれ

何處から流れて來て、どちらへ消え去るとも知れない薄靄が、山から甲へ、里から街へと、丸で夢のやうに立籠めて行つて、泌々春が來たと思はせられる。蓮車さんのお工合ひが惡いので、大學病院の戸出先生にお願ひした處が、早速夕刻御來診下さる。一週間程の御靜養で御平癒とのことである。夜、藤井正次さんみな子ちゃんを連れて神戸より御歸園なさる。

（一九二四、二、二〇）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

長姫一燈園日記

谷野捨三

○六月一日　金、晴
捨三　山本、近藤さん宅へ養蠶手傳
○六月二日　土、晴
捨三、山本、近藤さん宅へ養蠶手傳
○六月三日　日、晴
捨三、山本、近藤さん宅へ朝から茶摘み
　夕方近藤さん宅をおいとまして昌夫（樋口）さんと展（近藤の坊ちやん）さんと一緒に出飯樋口さんへ立寄つて九時頃歸園せしに赤穗に托鉢してゐられた住山了觀さん眞川地さん湄一司さんの三人が赤穗より八里の道を徒歩にて來園、しばらく當地に托鉢して下さることとなる。
○六月四日　日、晴
了觀、甘、休養
捨三、上飯田丸山酒井平太郎さんへ、終日桑こき。

功坊ちやんの初節句とて楯さんのお宅から赤飯の御供養があつた。
○六月五日　火、晴
　朝、樋口さんから電話がかゝつたので何か知らんと了、地、捨の三人連れ立つて立寄つて聞いて見ればお節句の赤飯を御供養したかつたのだと。
了觀、料理店千歳へ庭の草むしり。
地甘、鯛めし櫻、桑切り。
　了さん午後三時頃草むしりが終へたので地甘さんの應援にお隣の鯛めしへ行つて二人で硝子拭を初める。
捨三、酒井平太郎さんで桑こき。
　晩四月卅日（一笠一杖）漂泊の旅に出られた佐藤宗六さんヒヨツコリと現はれる。甲州で丹澤正作さんに會ひ武藏野に荻嶺さんを訪れ東京で玄光社をとひ同人の人達にも會つて來たとのこと。今度の旅で久しい間の公案がとけて愈々一灯園から離れて下伊那の地に小さな家を建て讀書と思索と百姓とに全生命

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

を打こんで十年間默々として やるといつてをられた。

○六月六日　水、晴

捨三、酒井平太郎さんで上簇の手傳多忙なり。

了、地、二人鯛めして硝子拭き、夕飯をいたゞいてからお勝手の手傳をしてゐたとて九時すぎ歸園さる

宗六さんは石井病院に　ちやんを見舞ふ。

○六月七日　木、晴

了、地、兩人鯛飯櫻て硝子拭。

捨三、未明出園、山本、近藤さんへ養蠶の手傳、泊る。

○六月八日　金、晴、午後から雨

了觀、休。

地、甘、鯛めしさんで草とりと硝子拭。

捨三、近藤さん宅より朝出發、山本から三州街道を南下二里、小野川の石原等さんのお宅へ托鉢に行く。

宗六さんは縣村小林力太郎さん所で當分下僕となる

夜、楯さん來園、泊る。

○六月九日　土、大雨、終日止まず

了、甘、兩人鯛めし硝子拭。

捨三、小野川石原等さん宅上簇の手傳、泊り。

○六月十日　日、曇

了、地、兩人鯛めし硝子拭。

捨三、小野川で托鉢未だ歸園せず。

○六月十一日　月、曇

捨三さんへ手紙を出す（京都の和さんからいはがき及爲替同封）。

了、地、兩人鯛めし硝子拭。

夜捨三さん石原等さん同道歸園、楯さんも來園久し振でにぎやか、鹿ヶ谷當番の立山さんから來信。

近日中に二人程托鉢者をよこして下さるとのこと。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

燈影餘錄

——神戸光の友の會記事——

安倍見如

十二月十五日、此の日は、神戸光の友會第二回例會を、須磨なる太子館で開催した。正午、一燈園の同人が會場の掃除を始めやうとする時、己に西田天香師がお見えになる。そして二階の應接室に入られると、直ぐ續いて天香師にお會ひす可く、ジャパンクロニクル新聞のジョン、ブレイルス、フォード氏が、大阪の岩橋氏夫妻と共にいらつしやる。天香師とブレイルス、フォード氏とのお話は、岩橋氏の通譯て、隨分長い時間續く。其の間に天香師へ懇談希望の方々が次々とおいでになる。三時頃には、縣立高等女學校の上級の生徒さんが約十名、會員なる同校教諭吉田卯一郎氏と一緒に見えられ、一燈園同人と共に甲斐々々しく托鉢して下さる。館の內外の掃除が悉く出來上つた頃、天香師は應接室の對談の方をやう〳〵終へられ階下へいらしつてお茶を汲みながら、女學校の生徒さん達をはじめ、其處に集つた人々の爲め、色々とお話をして下さつた。生徒さん達は、天香さんの約一時間のお話にたいへん悦び、是非此の次にも寄せていたゞきたい、今度はもつと大勢で參りますと言はるゝ、斯くて生徒さん達は、黄昏頃、名殘を惜しみつゝ歸途に就かれた。

やつと少しの隙をつくつて、天香師がお握飯の包を解かれたのは、もう日が全く暮れてからであつた。二三の會員や一燈園の同人も、お握飯やうどんで夕食とする。そのうち三々伍々會員の方がお集りになる。前の初會合に見えなかつた人々も隨分多い。神北長狹から御婦人の方々が十名許り一緒にいらしつたのもあつた。此の會の成立を人傳に聞いたが、誰でも入會出來るかと問てう來るお方も二三あつた。みんなは天香師を中心にぐるりと塲座して、色々話の花が咲く。

午後七時開會、臼井牧之助氏の開會の辭、一燈園の安倍見如が自分達の托鉢してゐる會務の報告、次いで天香師の御講話。天香師のお話は、先づ、此の會は世間並の會のやうでなく、飽迄眞摯にお互手を執つて扶け合ひ、本當に共同の祈の效果を擧げたいと望まれ、それから此の二十余日間、講演托鉢をな

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

さつて、お巡りになつた信州の御みやげ話があつた。しかも其のお話がまた時々脱線する、其の脱線がまた面白い。一時間餘りの御講演が、聽衆に寸分の退屈も與へない、まるで水をうつたやうにシンとしてゐる。其のお話は全くのおみやげ話ではあるが、要するに、此の時局多忙の時に際し、幸にも人々は次第に目覺めつゝある、そしてあらゆる方面に改造の氣運が向いてゐる。さて其の實を擧ぐるにはどうしやう。其は徒らに大きな策を机上に究めるより、先づ眼前より假令小なりとも、機會を見つけてこつこつやつて行くにあらう、これこそ改造への確たる階段だといふにあつた。天香氏の御講演が濟むと、福原八郎氏がお起ちになり、改造は先づ自己の生活よりと論ぜられ、また、一燈園及び光の友の會に對する世人の批判は、これから會員の一擧一動に關することであるから、お互に一層自重せねばならぬと望まれた。

會員の感想談は、岩橋武夫がエスペラントと一燈園に就いて話されると、大平正吉氏は其の話から引いて眞摯なる感激談をなさる。福原八郎氏は再び起つて、エスペラントの必要から、華府會議の實際の狀況をお話になる。最後に姜文灊氏が、朝鮮人より見たる民族和衷を談ぜられる。何れも會員に多大の興味と感激とを與へた。

天香さんが口火を切つて、此會の例會の當日、有志の爲めエスペラントの講習をしてはどうだらうといふ話になる、岩橋氏は講師として快諾せられ、其の日は正午から來てもいゝと仰言る。斯くて思はざるうちに時間は經過し、もう十時に垂んとするので大平氏は毎日曜朝集合して祈を深めるやうにしては如何との、希望を述べられたが、其は次回までの研究問題として、會を閉ぢた。其の夜會する人約七十名、外に縣立高女の生徒さん始め、都合上開會前お歸りになつた人が十余名ある。寒いからといふので、會場は階下の日本式の疊の間を使用することにしたが、文字通り滿場立錐の地もなくなつて、これ以上參會者があつたらどうしやうと、世話の任に當つてゐる人々は、氣を揉んだ程の盛會であつた。

因に此度西川惠隆さんが、天香師と共に信州を巡られた處が、諸方で此の會の事を質されたとの事、そしてわが神戸光の友會の申合案を基礎にして、會規を作製し、さつそく光の友會の設立をした處も、二三にして止まらずあつたとの事、吾等はお光のめに大いに悦ぶ者である。あゝお光は愈々映え輝く。さりとてお光の示すところに從ひ、三つの大誓願を立てし吾等の任の重きことよ。切に全國の同志の方々のお祈を希ふ。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

東京一燈園より

敬偉無

▼東京同人の震災に對するいのりは、ほゝ同前。たゞ、久しきに亘る極度の緊張は、必ずしも人の健康に可ならず、A兄病みB姉倒るゝを見る時、犧牲なくして生命の育ち難き事實に涙ぐまるゝのみ。

▼「子供の家」に、此度、專門の敎養ある奉仕者三人を惠まれた。なくて叶はぬものを具へたまふ御力に隨喜せずにゐられぬ。

▼昨日黑田兄を路頭におくり、今日また篠崎兄に十字架を負はす。兩兄の齡漸く若冠。早、十歲に垂んとする入園當初の吾を顧み、感慨に堪へざるものなからず。今、吾等に供養されたる腹ふくるゝほどの食と溫き寢床とあれど、敢て之を分たざらんとするは、非人情なるに似たれど、實は大願の士に對する吾等が衷心よりの禮なればぞ！

さきくあれ吾が友！　早春、風いまだ寒く、霜結ぶ夜半もあらむ。

▼震災善後會から五千圓御供養くださるとの御沙汰に接した。吾等が聊かのサーヴィスを認められてのことだらうが、自ら省みて忸怩たるものなくはない。罹災者の惱みは愈深刻化しつゝある折柄だ、同人相警めていのりを澄まさなくては。御供養は、それて、セッツルメントの仕事につかはせてもらつてはと考へてゐる。場所は三ノ輪三河島方面になるか江東になるか、それとも新網邊になるか、まだ確定しないが、一つどつかり腰を据ゑて、乏しすぎる人々に仕へ、心と心との接觸によつてスパークの閃くまで行き切りたく思ふ。咏嘆的行脚と高山佛敎とにはおのづからその人があらう。時代苦に直面して渾身の熱禱をさゝげんとする諸兄姉の奮起を懇願せずにをられぬ。

▼同人クロちやん二世の報告――

『電車の中で、僕、うまいことをきいてきましたよ、一燈園の噂をしてるらしいので、耳をすますと、「一燈園つてナマズみたいだね」つていうんでせう。思はずクス／＼笑つちまひましたよ。』

善哉々々、一つほんとに、あの「莊嚴なる」ヒゲのはひた大ナマズに化けて地底にひそみ、世界中をガタピシ震はしてやらうかな。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN